

オンラインリアルタイムIRE型

問い

遠隔合同授業で、2つのクラスをつなぐとT1とT2ができます。T1の先生の質問に、二つの教室の生徒が答えます。先生は自分のクラスだけでなく、遠隔地の教室の生徒のこともみながら質問をして、あてて、評価しなくちゃいけない。そんな時T1とT2の先生はどんなふうに役割分担したり、レイアウトを工夫して、生徒みんなが質問に答えたり、先生がその答えに反応しやすくすればいいんだろうか？

イメージ



レイアウト

- ・教室と教室をつなぐパターン
- ・教室と一人一台タブレットをつなぐパターン
- ・全員が一人一台タブレットで参加するパターン

<RJ>

・教室と教室をつなぐときに、

- (1)両方が対面授業の場合:教室全体(児童生徒の様子)と教員(先生の姿と黒板等)を相手に送り、映すためのモニターが互いの教室に必要
- (2)一方が教室での対面授業授業、もう一方がオンライン授業の場合:対面授業教室に、相手のオンライン授業をしている学校の児童生徒の様子が写すモニターと相手の教員の端末の画像を映すモニターが必要
- (3)全員が一人一台の端末でオンラインで参加する場合:できれば教員に2つの端末(提示用と児童生徒の様子を表示用)が欲しい。

<SJ>

全員が一人一台タブレットで参加するパターン

- ・zoom用の端末とロイノート用の端末、計2台を一人一人が持てるとやりやすい。難しい場合は一端末でzoomとロイノートの併用可能。教師は2台併用。

使用する機器

- ・モニター
- 教師側の画面を2画面(デュアルディスプレイ)にすることで、質問で手をあげている生徒を見逃さないようにした。

<RJ>

- ・対面授業の教室では、教員の端末にマイクスピーカーシステムを接続し、児童生徒の声も拾える位置に置く。児童生徒はオーディオを接続しないことで、ハウリングが防げる。
- また、教員がマイクをオフにすることで、マイクスピーカーシステムのマイクがミュートになり、スピーカーのみが機能する。児童生徒のオーディオ接続をして、発言時のみマイクをオンにすることで小さい声の児童生徒や広い場所での授業に対応できる。

<SJ>

全員が一人一台タブレットで参加するパターン

iPad, PC

<p>良いところ</p>	<p><SP> ・子どもたちの意欲が高かった。やはり、相手のことを知るとか、自分がインターネットで調べられるのだけど、そこに住んでいる人と直接やりとりし、自分の質問に答えることで意欲がとても高かった。 ・オンラインのギャラリーレビューだと全体がみえるので全体の様子を見れる。 ・当てられない子は、画面から離れたり隠れたりする。生徒の心が画面上でみやすい。話したい子は話したそうなど。いいタイミングで子どもに指名することができる。それができるように2画面にして、1画面は全体をみれるようにした。見て見ぬふりができる。 ・リオの学校との役割分担をする時、いきなり全員が集まるのではなく、子ども同士の小グループの交流をすごくたくさんした。サンパウロだったら、小1小2で1グループに先生がはいったり。自己紹介など。大きな枠にいきなり入れない。慣れてくるように。誰がそこにいるかが実感できるような工夫をした。それが落ち着く。 ・一回目はもちろん話しづらさがあつたけれど、数回かさねると、名前もしってるし、顔もわかってくるので、全体の雰囲気がよくなった。小グループの形成は、同じグループでやっていった。同じメンバーにした。そこで話せる自信がついてくると、リオの交流だけじゃなくても自分のクラスに帰った時に発言できるようになった。そういう成長を感じる。 ・オンラインで話すことに大きな壁はなかったけれど、やっぱり、話すことを意識するというより、聞きたいという意識が高まった。.:ちゃんみせて、と名前をいって、.じゃ聞こえない、と声を出していった。聞く側が反応する。</p> <p><AC> <SJ> ・(一人学級の場合)オンライン授業においても一緒に勉強している感じが味わえる。 ・アクティブラーニングがしやすい。(継続が鍵)本校は少人数なので、学び合いの時間になる。 ・回数を重ねる毎に児童生徒同士の繋がりが強くなり、1つの学級のような感覚を味わえる。本校高学年はそういった空気感がもうできてきている。 ・「思考・判断・表現等」の部分をもつ授業を展開できる。</p> <p><RJ>回数を重ねていくうちに話しやすくなり、SPとの合同授業最後の方には、子ども達が自主的に活動に取り組む姿まで見ることができました。パンデミックで人と触れ合う時間が少ない中、より多くの大人、同学年の仲間と出会えたことは、子ども達にも救いになったのではないのでしょうか。 ・1つの教室に全員がいる一体感がある。即時フィードバックしやすい。質問や話し合いが活発である。</p>
<p>問題点</p>	<p><SP> ・画面に書き込んでくる児童がでてくる。先生、ここでしよう！といいたくなっちゃう。そういうアピールの子たちはいる。本当は邪魔してほしくないけれど、それをうまくいはずともできそう。</p> <p><AC> <SJ> <RJ> ・慣れていないと、全員に向かって発言することをためらう児童生徒もいる。発言者が偏ってしまうことがある。書き込み等についても同様である。</p>
<p>工夫点</p>	<p><SP> ・理科と社会:小さな質問を積み重ねていって、授業の問いにつなげていく。他校の生徒がいる時は、「探り」を入れた。北海道の学校の生徒と交流する時、時差があつたので、担任同士も探り合いだった。今どんな感じでやっていますか?とかなり相手の学校のコミュニケーションを取りながら進める。子どもとは時差があるため、作品の交換とか、感想をもらうなど非同期型で行った。 ・4年生 世界をつなげる日本をテーマを勉強したあとに、「実際つながってみよう!」とした。導入と実践をつなげた。12時間の時差があるので、簡単な紹介の動画の計画をたてて、交流して、それから本番!相手と仲良くなるにはどうしたらいい?と問いかけた。相手のことをまず調べてみた。メールや手紙のやりとりとかもできそう。 ・普段の日常の授業で行っている。理科実験の設定で、予想などを聞くようにしている。実験結果がでたらまた「どう思う?」と聞くようにしている。オンライン授業でも実施した。教科書にも答えがあるので、それを面白くするので、「なぜ」を見つけさせる工夫をした。「どう思う?」となぜを投げかけてみた。 ・去年2年生で授業研究で、リオの低学年。リオは教室、SPは教室である。実施したのはクイズ。お互い興味をもつようなことをクイズにした。みんなが参加しやすいように、○、×クイズにした。○か×かを手で「いっせいのーで」出すことで、全員が参加することができた。</p> <p><AC> <SJ>Googleスライドを活用し、全員で同じスライドに入り、小1算数「かたちづくり」の共同的な学習が行えた。 <RJ> ・司会をする教員と、ZOOM操作を管理する教員を分けることで、ブレイクアウトルームや待合室が効果的に使えました。この方法だと、チャットも効果的に使えると思います。 ・学習をするという目的もあるのですが、まずお互いが仲良くなるために、十分なアイスブレイキングの時間をとることが、その後のグループ活動の良さに影響を与えると感じました。 ・回数を重ねることで、発言が活発になると同時に、オフラインのときの授業でも相手が意識できるように、相手の自己紹介カードを掲示したり、遠隔でのコミュニケーションについての学習活動や校内でのコミュニケーション力を高める授業や活動の機会を多くする。 ・あえての不正解役をT2が担い、正解を導く話し合いを組織する。</p>
<p>困りごと</p>	<p><SP> ・オンライン授業で、思った以上に子どもが話を聞いていない。話を聞いてるかどうかの確認をしても、今日の課題はこうだったね、といっても、今日の課題は何をするんですか?と聞かれたり、そういうことがあつた。特に1学期はそういうのがあつた。先輩の子どもは、子どもの言葉のほうが大人の言葉よりも入ってくるよ、というのがあつて、ミュートをはずさせて、誰かがしゃべったことに反応したことをひろって、友達が何か感想をいったら、みんなどう思う?という感じで、誰かがしゃべったことについて反応させるようなことをやった。ミュートという機能があるので、(教室にはない)そこが、なるべく反応をしてあげる、反応をした人をつなげる、というのをやりました。教室って困った人がいたら助ける。先生からさされてこまったら、周りが助けてくれるが、オンライン授業だと自分ひとりというのが多い。耳からの情報が大事になってくる。ミュートをはずす。</p> <p><AC> <SJ> ・日常的にできれば最高だが、時差がある2校で日常的に行うために日程調整等が負担。 ・教員のチームワークと気軽に互いに交流できる雰囲気が必要。 ・実践が継続しないと人間関係が築けず、話し合いなどが有意義になりにくい。 ・教室と教室、教室と一人一人などで行うと、個々の表情や様子が見えにくい&自分が発言したい時にしづらいという状況が起きる。</p> <p><RJ>少人数の児童生徒が、大人数の教室にコンピューターで入ると、周りがよく見えず、接続が悪い時間帯などは、取り残された気持ちになっていました。 ・音声だけでは話し合いの内容や経過が分かりにくく、全体が捉えにくい。</p>

挑戦したいこと	<p><SP> <AC> <SJ>教室と教室, 教室と一人一人であっても, 個々の存在感を生かした授業を作りたい。(または教室であっても一人位置端末でできるかどうかなど) <RJ>アナログ(ホワイトボードにペンでグループの考えを書くなど)とデジタルの融合。 *調べ学習にとどまらず、共同制作ができるとよいと思います。 *話し合いの経過や概要がわかるように、ホワイトボードなどにグラフィクスレコーディングや文字での記録したり、チャット機能などを生かしながら授業をしていきたい。</p>
---------	---